

高知国際高校の総合学習は「Global Citizenship Project I」(GプロI)です!

どんなスキルが身につくの?

「地域創生」について探究し、さらに「探究するためのスキル」を身につけていきます。

GプロI (1年) の取組

第1～2回 GプロIとG-suiteのガイダンス

GプロIの授業の目的や、国際高が育てたい「グローバルリーダー」とはどのような人のことを指すのか、などについて考えました。G-suiteのガイダンスではタブレットを用いて行い、活用方法を理解しました。

第3～4回 ワークショップ「コンセンサス～月～」・進路LH

コンセンサス(意見の一致)ゲームにより、合意形成の方法とその重要性について理解しました。「月」に持っていく物を、個人で考えた時より班員と考えた時の方が重要度の高い物を順位付けできました。

第5回 高知大学准教授 石筒覚氏による講話

高知大学准教授石筒覚氏による「探究活動とは?」という講話を通して高知県の地域課題を探究する際の手法、地域の捉え方等について学習しました。生徒からの質問も複数あり、前向きに取り組みました。

今までGプロって何?というふうに思っていたので今日の授業で知ることができて良かったです。グローバルという考え方が自分の中では国際という広い視点だったので、高知県や高知市、自分の住んでいる市町村を世界規模で見るとグローバルなんだということが確認できました。質問ではY君のどうすれば社会人なのか?ということは自分も気になっていて、何か活動をしているとみんな社会人なんだとわかりました。探究する時にみんなにやってほしいことは、「?」を3つ探す事だと言っていたので、そのことに気をつけてこれからの探究授業を受けたいと思いました。

第6回 インタビュースキル

「事前の情報収集」「尋ねたい内容の整理」「日時の確認やメモ・写真などの許可取り」「話の掘り下げ」といった「インタビュースキル」について学習しました。



インタビュースキルの学習中



インタビュースキルの実践中

第7～9回 地域講演に向けた事前準備（情報リテラシー&インタビュースキル）

地域学習の流れを把握して、地域課題の候補地・講師について知識を深めました翌週に実施される「地域で活躍する人々による地域講演」に向けた情報収集と、インタビューに向けた準備を行いました。

第10回 地域講演（情報リテラシー&インタビュースキル）

高知県内で活躍する8地域、10名の方を講師としてお招きし、「それぞれの地域でどのような活動を行っているのか」、「活動する中で感じる難しさ」などについてご講演いただきました。また、生徒によるインタビューや質疑応答も実施しました。



前列左から

梶原町役場森林の文化創造推進課長 立道 斉 様
株式会社わらびの代表取締役 畠中 智子 様
美良布地区活動センターおしゃべり倶楽部 五百蔵由美 様
CAFÉ AYAM 代表 白鳥 恵利子 様
特定非営利活動法人 日高わのわ会事務局長 安岡 千春 様
特定非営利活動法人 暮らすさき 事務局長 大崎 緑 様
リゾートホテルヴィラサントリー二代表取締役 大井 史子 様

後列左から

高知国際高等学校 足達昇 副校長
モンベルアウトドアヴィレッジ本山 主任店長 山中 公平 様
大野見七面鳥生産組合長 松下 昇平 様

ヌックスキッチン代表 西村 直子 様

私は今までその地域に移り住んでもらうことが過疎化の解決の仕方だと思っていましたが、住んでもらわなくてもその地域へ関係している人を増やして町を活性させるやり方もあるという新しい考え方を得ることができました。

第11回～第13回 地域講演のまとめ・課題発見（分析スキル&コミュニケーションスキル）

地域講演で収集した情報の分析とまとめを行いました。

分析にKJ法を用い、情報をカテゴリー化し、その関係性を考え、他グループと講演の情報を共有しました。また、各班で考えた地域課題を発表し、探究学習のゴールイメージを共有し、8月20日に実施される県内リサーチの行程表を確認しました。

KJ法は単に学んだことをまとめるだけでなく、学んだことを思い出し振り返りもすることができるため、まとめることに関してとても良いと思った。地域によって課題が少しずつ違い、それに合わせたそれぞれの課題解決策があると思った。

斬新なアイデアに驚かされた。厳しい環境をもポジティブに捉え、逆に強みに変えていこうという発想には感銘を受けたし、自分も見習っていこうと思う。また、地域課題に対しては地域住民の協力が大切なのだと思う。そのためにも、世代を越えた繋がりを大事にしようと思う。